

2025年

11月 ほけんだより

中宮まぶね保育園

朝夕の冷え込みが厳しくなってきました。一日のうちの寒暖差が激しいと、かぜをひきやすくなります。これからやってくる本格的な冬に向けて、かぜに負けないじょうぶな体作りを心掛けましょう。

今月の予定

発育測定

11月5日(水)



インフルエンザから身を守るためには？

(1) 正しい手洗い

私たちは毎日、様々なものに触れていますが、それらに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。

ウイルスは石けんに弱いので、ウイルスの体内侵入を防ぐために、帰宅時や食事前など、こまめに手を洗いましょう。

(2) 流行前のワクチン接種

インフルエンザを発病した後、多くの人は1週間程度で回復しますが、中には肺炎や脳症等の重い合併症が現れ、重症化してしまう人もいます。インフルエンザワクチンを打つことで、発病の可能性を減らすことや、重症化を予防することが期待できます。

例	発症日	発症後5日間(登園停止期間)					発症後5日を経過		
	0日目	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目
発症後 1日目に 解熱した 場合		解熱 	1日目 	2日目 	3日目 		登園 OK 		
発症後 2日目に 解熱した 場合			解熱 	1日目 	2日目 	3日目 	登園 OK 		
発症後 3日目に 解熱した 場合				解熱 	1日目 	2日目 	3日目 	登園 OK 	
発症後 4日目に 解熱した 場合					解熱 	1日目 	2日目 	3日目 	登園 OK

毎朝、検温をお願いします

子どもたちは自分で自分の体調をきちんと伝えることができません。必ず、毎朝検温をして、子どもたちの健康管理をお願いします。乳児クラスはバインダーに、幼児クラスはスタンプ帳に必ず体温の記入をお願いします。



10月は、乳児クラスで

RSウイルス感染症が流行しました

RSウイルスの感染による急性の呼吸器感染症で、乳幼児に多い感染症です。

年齢を問わず何度も感染を繰り返しますが、初回感染時には、より重症化しやすいといわれており、特に生後6ヶ月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が少なくとも一度は感染する、とされています。

主な症状

潜伏期は2～8日とされ、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続きその後、場合によっては、気管支炎や肺炎などの症状が出てきます。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴や呼吸困難、さらに気管支炎の症状が増加します。

感染経路

RSウイルスに感染した人の咳やくしゃみなどによる飛まつ感染と、ウイルスの付着した手指や物などを介した接触感染といわれています。

10月に報告があった感染症

RSウイルス感染症 13名

インフルエンザA型 15名

溶連菌感染症 2名

新型コロナウイルス感染症 1名